

第3回 小田川合流点付替え事業 環境影響評価フォローアップ委員会  
議事要旨

開催日時：令和元年10月9日（水）14:00～16:00

場 所：国土交通省 中国地方整備局 岡山河川事務所 2F 会議室

出席委員：7名中5名出席

議事要旨：

1. 環境モニタリング調査結果[平成30年～令和元年] 【資料-1】

(1) 水環境調査

委 員：地下水の水位の調査地点は2地点か。

事務局：資料-1のp.4に示したとおり、真備平野6地点、柳井原地区3地点で調査している。  
調査結果のグラフは代表地点各1地点を示している。

委 員：堤外水路のDO値の低下について、底泥の下数ミリはDO値が0mg/Lである。これが巻き上がると水中のDO値が低下する。濁りが原因ということならこの可能性が考えられるが、グラフをみるとDO値は上昇して過飽和にもなっている。DO値の上昇は植物プランクトンの光合成による作用だと考えるのが一般的で、計測箇所の植物プランクトンが増えるところなりやすい。濁りというだけではDO値上昇の説明がつかないのではないか。

事務局：参考資料1にDO値の変動幅が大きい時期（令和元年4月～8月）の拡大グラフを掲載している。これを見るとDO値が昼間に上がり、夜間に下がっていることが確認できる。

委 員：代掻きの際に発生する泥水は栄養塩を高濃度に含んでおり、この泥水が流出したために、植物プランクトンの異常増殖が発生したと考えられる。植物プランクトンは、昼間は光合成による酸素供給が卓越し、夜間は光合成が停止して呼吸による酸素吸収のみになる。高濃度の植物プランクトンが存在したので、昼間は光合成によりDOの過飽和が発生し、夜間には呼吸により無酸素に近い状態が発生したと推定される。

(2) 動物調査

委 員：タナゴ類は確認箇所でも再生産されているかが重要である。6月の調査でタナゴ類の当歳魚を多数捕獲したとあるが、どのサイズを当歳魚としているか、体長等のデータも提示してほしい。また、その他の魚種についてもデータを提示してほしい。

事務局：後日提示する。

(3) 植物調査

委 員：百間川でオニバスを移植した事例でも食害があった。出水により水草等が流失して餌不足の状況にあり、移植個体が食害を受けやすい状況だったと考えられる。食害の原因は、株が小さい時はアメリカザリガニやミシシッピアカミミガメ、株が大きいとヌートリア、カモ類等と考えられる。食害を受けないよう、ある程度株を大きくしてから移植すること等が考えられる。小田川に移植したアサザの食害原因はヌートリアと推定されており、今後防除方法を検討する上でもヌートリアの調査があってもよいのではないか。

委 員：ヌートリアは二枚貝を捕食するという報告もあるため、タナゴ類の保全の観点からも

ヌートリアの個体数や分布等に関するモニタリングが必要ではないか。アメリカザリガニとミシシippアカミミガメはカゴ等で両方捕獲できる。

事務局：ヌートリアの調査については欠席委員からも同様のご意見があった。なお、外来生物への対応については、国土交通省だけで対応できる問題ではなく、市など関係機関との連携が必要な事項であり、関係機関と話をしながら対応を検討する。

#### (4) 生態系調査

委員：真谷川ねぐらは今回初めて確認されたとのことだが、チュウサギがかなりの数、ねぐら入りしているので、今後も注意して観察してほしい。

## 2. 今後の環境巡視について 【資料-2】

### (1) 環境保全措置等の内容

委員：南山掘削は上部の8~7段目くらいは植物を使つての緑化で、それより下部は法枠工等を使うイメージと考えるが、当面どうする計画か。

事務局：環境保全措置では「在来種」の使用など対応が難しい部分もあるので、相談に伺う。

委員：南山掘削で発生する伐木は住民への提供で処理できる量なのか。

事務局：住民への提供も行うが、譲渡先として林業組合にも声をかけており、チップ等として使える材かどうか検討してもらっている。

委員：南山掘削部に生育する樹種はコナラが主ではないかと思う。コナラならば、薪ストーブやシイタケ栽培の原木といった活用法がある。材積を見積もっておいて示すなど、ユーザーへのアナウンスが重要だと思う。

委員：外来種の駆除について、柳井原貯水池の外来種は最終的にどこへもっていくか。またはどこで処分するのか。

委員：ミシシippアカミミガメは冷凍し専門の業者にて焼却処分していた事例がある。

事務局：具体的な処分方法は今後検討する。現場で殺処分する必要があるものは、市など関係機関との連携を図る。

### (2) 環境巡視の進め方について

委員：工事業者が環境保全措置を適切に行っているか、どのようにチェックするのか。

事務局：環境巡視業者が工事現場を回り、チェックリストに沿って月1回の頻度で確認する計画である。

委員：堤外水路のDO低下の水生生物への影響で、魚類は移動するが貝類はどうか、越冬期はどうなっているか等が気になっている。環境巡視と併せて、堤外水路のDO低下のチェックや異常点検（魚類の死亡浮上等）ができないか。

事務局：小田川でのこれまでの調査で蓄積されたデータも活用して対応を検討する。

委員：工事の進め方について、住民への説明をしっかりとってほしい。

事務局：工事については、小学校区ごとに説明し、農業土木委員の方々にも説明している。また、工事中は高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所（以下、事務所）をオープンにして住民の方が入りやすくしている。今後は、その時点の工事進捗が分かる「立ち寄り所」のようなものを施工現場近くに設置する等の対応を考えている。

委員：工事中の台風等の災害対応はどのように行うか。

事務局：当事務所が倉敷市真備支所と同じ場所にあるため、倉敷市と連携して災害時の情報共有等を進めようと考えている。

### 3. その他

委員：小田川の環境評価の結果について、付替え後の小田川本流に流速の遅い場所をつくる必要があるという理解でよいか。

事務局：堤外水路は変更しないので基本的には維持される。ご指摘のとおり、小田川本流の下流側をどうするかという点が課題である。

委員：タナゴ類については、県内の別の場所でモデル解析を行っているが、生息適地は水深・流速以外にもカバー等の要素もタナゴ類の生息地適性に関わっており、季節によっても違う。繁殖期等のデータを追加すれば、さらにより予測モデルができると期待される。

以 上